

日本語学習者による多読用書籍の選書とその評価

坂野 永理

Selection and Evaluation of Extensive Reading Books by Japanese Language Learners

BANNO Eri

要旨

本稿では、著者の所属する大学で開講された多読クラスの概要を紹介するとともに、その授業の履修者 107 名の読書記録から、彼らの選書傾向、本の理解度、面白さの評価を報告する。履修者は授業が進むにつれ、段階的読み物から日本語母語話者用の読み物を読む割合が増えていった。また、理解度については、段階別読み物の理解度が高く、日本語母語話者向けの本の中では絵本の理解度が高かった。さらに、面白さについては、漫画の評価が最も高かった。データからはまた、日本語力の低い学習者には母語話者向けの本は適切な多読教材とは言い難いこと、今後日本語学習者のための多読教材を質量両面での充実する必要性があることも示唆された。

キーワード：多読，日本語学習者，書籍，理解度，面白さ

1. はじめに

近年日本語教育においては、多読の授業を行なっている機関が増え、多読に関する研究も多く見受けられるようになった（高橋, 2016；渡部・徐・山下, 2015 等）。多読は「辞書なしでも十分に理解できる易しい本を楽しく速く読むこと」と定義される（国際教育多読学会, n. d.）。Day and Bamford (2002) は、多読の 10 原則の中で、多読の教材は簡単なものであること、幅広いトピックの様々な読み物が用意されていること、学習者は読みたいものを自由に選ぶこと、できるだけ多く読むこと、読む目的は楽しむ、情報を得る、内容を大まかに理解することなどを挙げている。

Nation and Waring (2013) は、多読の読み物は学習者のレベルに合ったものを用意すべきとし、そのために段階別読み物（Graded Readers）を利用することを推奨している。Nation and Waring はまた、読み物はフィクション、ノンフィクション問わず、さまざまなジャンルやトピック、そして学習者自らに読みたいと思わせる面白い読み物を用意することが必要であるとも述べている。日本語学習者用の段階別読み物としては、2006 年に「レベル別日本語多読ライブラリーにほんごよむよむ文庫」（以下「よむよむ文庫」）が出版され、その後出版された「にほんご多読ブックス」と合わせ、現在 130 冊以上の

段階別読み物が利用可能である。この他にネット上にもいくつかの段階別読み物があるが、これらの入手可能な読み物の中から、学習者各々のレベルに合い、かつ学習者自身が読みたいと思える本となると、その数は少なくなり、利用できる段階別読み物だけで多読を行うのはまだ難しい状況にある。

著者の所属する大学では、日本語コースの一科目として「多読で学ぶ日本語」という授業を開講している。そこでは「よむよむ文庫」や「にほんご多読ボックス」の他に、漫画、絵本、児童書も含めた図書を用意し、その中から学習者に読みたい本を選ばせている。本稿では、「多読で学ぶ日本語」の概要を紹介するとともに、授業で学習者が記入した読書記録から、学習者がどのような本を読み、読んだ本の理解度はどのぐらいか、面白さについてどう評価したかを報告する。

2. 授業の概要

2-1 開講時期と時間

「多読で学ぶ日本語」は、週 1 回 120 分の授業として開講された。本稿のデータは 2016 年から 2018 年の第 3・4 学期に授業を受講した学生から得たデータを使用した。各年の第 3 学期は 10 月から 11 月の 7 回、第 4 学期は 12 月から 2 月の 8 回開講された。

2-2 多読用の書籍

多読用の書籍は、以下のものを用意した。

1. 段階別読み物

「よむよむ文庫」「多読ボックス」など市販教材の他に自作教材も用意した。

2. 漫画

人気のある漫画の最初の 1・2 巻や有名なアニメ映画を漫画にした本などを入れた。

3. 絵本

大人でも興味を持って読めそうな絵本を中心に入れた。

4. 漫画・絵本日本語母語話者向けの本

漢字に振り仮名がふってある小中学生用の本、大人向けの詩集など、比較的易しそうな本を用意した。

2-3 多読の説明

多読の読み方は、学習者が従来行ってきた方法と異なるため、1 回目のクラスで多読についての説明を行った。多読とは「辞書なしで読める易しい本をたくさん楽しく速く読むこと」(国際多読教育学会, n. d.) と紹介し、多読と精読の違いや多読による効果を説明した。多読に適している既知語率としては 95% 以上 (Laufer, 1989) や 98% 以上 (Hirsch and Nation, 1992) などの説を紹介した。Nation (2001) は、既知語率が 90%

未満になると内容理解の程度が落ちるため、90%以上の本を選ぶことが大切であると提唱している。このため、授業では少なくとも知っている語彙が90%以上のものを選ぶように指示した。

また、一度の説明では多読についての理解が十分ではないため、学習者の様子を見ながら、折に触れ多読の方法について説明した。例えば、学習者の中には難しい読み物を読むことが勉強になると考え、なかなか易しい本を手にとらない者もいる。そのため、難しい本を読み続ける学生がいた場合、「すべり読み」では日本語力の向上につながらないこと（古川・高瀬・西澤，2014）などを説明した。

2-4 授業の進め方

クラスに上記の本を持って行き、授業時間は学習者が自由に好きな本を選び、それぞれが本を読むという活動を行なった。また、本の貸し出しも行い、授業外でも本を読むことを奨励した。クラスにある本以外にも図書館で借りたり、自分で買ったりした本を読んでもいいこととした。

学習者には読書記録シートを配布し、本を読み終わった後、1冊ごとに読んだ本の題名と簡単な内容や感想を書かせた。また、読んだ本についての「面白さ」を5段階評価で、「理解度」をパーセントで記入させた。読み方シートも配布し、読む速度の変化や未知語の多さなど、自分の読み方について気づいたことを毎週記入させた。

授業では、お互いが読んだ本について情報交換する機会も設けた。毎週小グループで前の週に自分が読んだ本についてあらすじと感想を話させるとともに、多読のサイトを立ち上げ、自分のおすすめ本について紹介文を書かせたり、クラスメートが書いたおすすめ本についてコメントを書かせたりすることも課した。

学期末には、それまでに読んだ本の中から好きな本を選び、その内容と感想を書いたレポートと、自分の読み方の変化についてのレポートを提出させた。

成績評価には、上記の読書記録シートと読み方シートの提出、おすすめの本の書き込み、読んだ本や読み方のレポートに加え、読んだ本の冊数を入れた。冊数は40冊を満点とし、冊数によって成績評価の点数が変わる方法をとった。

2-5 履修者

日本語コースは、日本語1（初級）から日本語7（上級）までの7つのレベルに分かれているが、「多読で学ぶ日本語」は日本語3（初級修了程度）から日本語7までの学習者を対象として開講している。2016年は日本語3から日本語7の学習者用に1クラスのみ開講されたが、2017年からは履修希望者が多くなったため、日本語3・4の学習者用に1クラス、日本語5-7の学習者用に1クラスが開講された。学習者は第3学期と第4学期を継続して履修することも可能であるし、第3学期または第4学期のみ

の履修も可能である。2016 年から 2018 年の履修者を合わせた数は 107 名であり、その内両学期続けて履修した者は 58 名である（表 1）。

表 1 レベル別・学期別履修者数

	日本語 3	日本語 4	日本語 5	日本語 6	日本語 7	計
第 3 学期のみ履修	7	9	10	9	2	37
両学期履修	9	12	11	13	13	58
第 4 学期のみ履修	4	2	1	3	2	12
計	20	23	22	25	17	107

3. 結果

3-1 読んだ冊数

表 2 は一人あたりが読んだ本の週平均冊数を学習者のレベル別に示したものである。書籍はページ数の少ない段階別読み物から、数百ページある読み物まで様々あるが、全て 1 冊とカウントした。学習者のレベルによる冊数の差は大きくなく、一人平均 1 週間に 4 冊ほど読んでいた。

表 2 一人当たり読んだ本の週平均冊数

日本語 3	日本語 4	日本語 5	日本語 6	日本語 7	全体
4.16	3.77	3.98	4.23	4.22	4.06

3-2 読んだ本の種類

表 3 は読んだ本の種類別総数と割合を学習者のレベル別に示したものである。どのレベルでも段階別読み物の割合が高いが、特に日本語 3 の学習者が段階別読み物を読む率が高い。日本語 4 の学習者を除くと、日本語 5 から日本語 7 にかけては段階別読み物を読む割合が徐々に低くなっており、代わりに日本語母語話者向けの読み物を読む割合が高くなっている。

表 3 読んだ本の種類別総数と割合

	日本語 3	日本語 4	日本語 5	日本語 6	日本語 7	計
段階別読み物	534 (68.7%)	465 (55.5%)	520 (60.9%)	563 (54.7%)	399 (49.1%)	2481 (57.5%)
漫画	153 (19.7%)	252 (30.1%)	237 (27.8%)	308 (29.9%)	261 (32.1%)	1211 (28.1%)
絵本	53 (6.8%)	76 (9.1%)	26 (3.0%)	46 (4.5%)	55 (6.8%)	256 (5.9%)
母語話者向け*	37 (4.8%)	45 (5.4%)	71 (8.3%)	113 (11.0%)	98 (12.1%)	364 (8.4%)
計	777 (100%)	447 (100%)	554 (100%)	545 (100%)	445 (100%)	2389 (100%)

*漫画・絵本以外の日本語母語話者向けの本

3-3 学期による本の種類の変化

第3学期と第4学期の両学期履修した学習者 58 名を対象として、多読を続ける過程で読む本に変化が現れたかどうかを見ることとした。図 1 から図 5 は、各学期で読んだ本の種類を日本語のレベル別に表したものである。どのレベルの学習者においても、両学期とも段階別読み物が最も読まれた本であるが、第3学期に比べ、第4学期は段階別読み物の冊数が減っている。その代わり、日本語母語話者向けの本が増えている。上のレベルの学習者のほうが日本語母語話者向けの本を読んだ冊数は多いが、どのレベルの学習者も段階別読み物から少しずつ日本語母語話者向けの読み物に移行している様子が窺える。

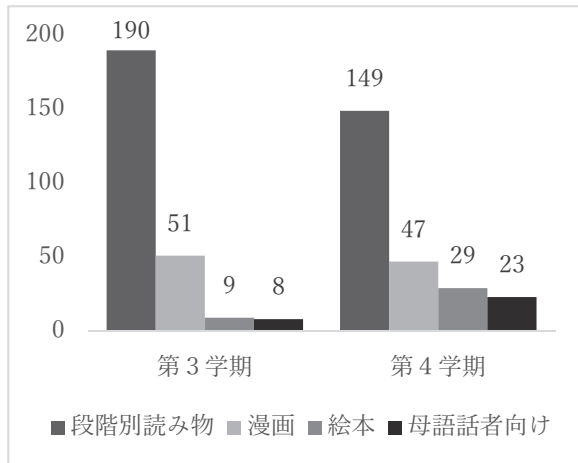


図1 日本語3の学習者の読んだ本

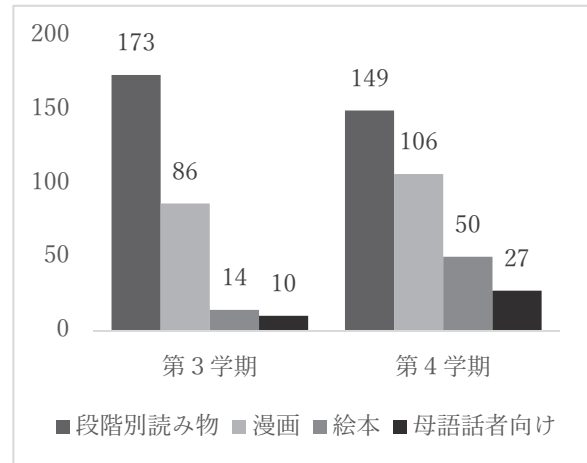


図2 日本語4の学習者の読んだ本

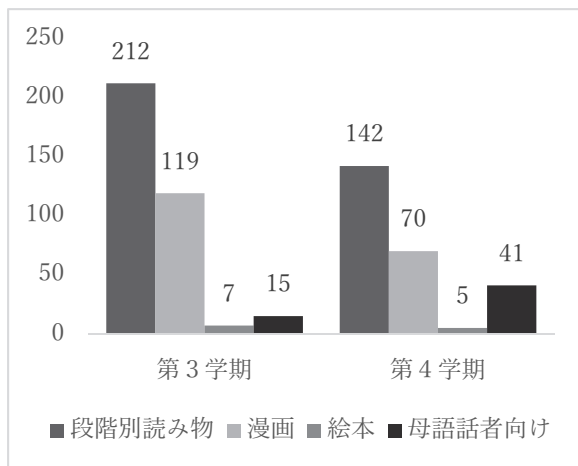


図3 日本語5の学習者の読んだ本

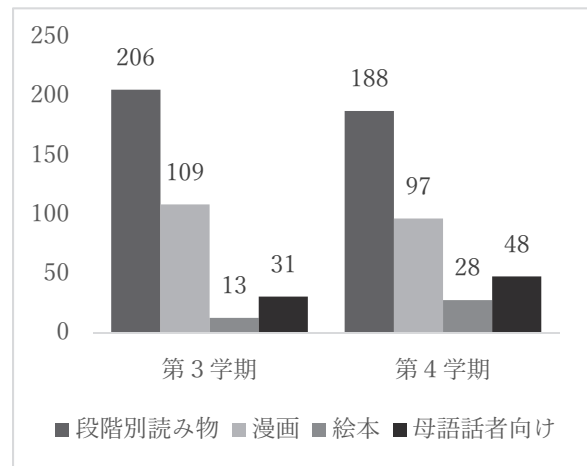


図4 日本語6の学習者の読んだ本

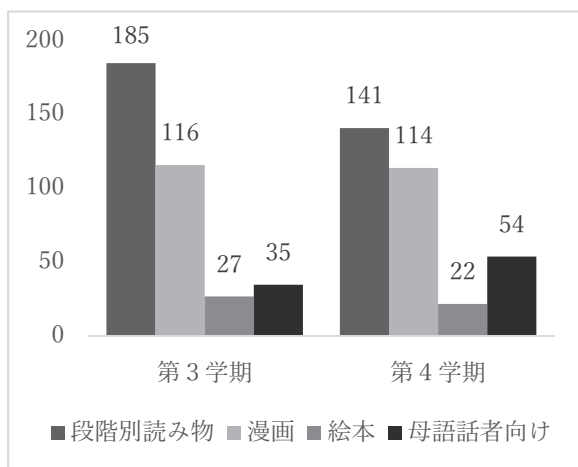


図5 日本語7の学習者の読んだ本

3-4 読んだ本の理解度

学習者には、読書記録シートに読んだ本の理解度がどのくらいだったかを記入させた。表4はそれぞれの種類の本の理解度の平均値を学習者のレベル別に分けて算出した値である。段階別読み物は、どのレベルでも最も理解度が高く、90%以上の理解度を示している。日本語母語話者向けの本の中では、絵本が他の本に比べて理解度が高い。漫画と漫画・絵本以外の日本語母語話者向けの本を比べると、漫画の理解度が少し高く、最も理解度が低いのは漫画・絵本以外の日本語母語話者向けの本である。

学習者のレベルによる理解度を見ると、学習者のレベルが上がるにつれ、読み物の理解度も上がっている。種類別では、日本語3および日本語4の学習者は段階別読み物の理解度は高いが、日本語母語話者向けの本の理解度は80%台がほとんどで段階別読み物との理解度の差が大きい。日本語5および日本語6の学習者は、日本語3および日本語4の学習者より高い理解度を示しているが、漫画・絵本以外の日本語母語話者向けの読み物は90%未満となっており、他の種類の本より理解度が低い。日本語7の学習者になると、全ての種類の読み物で理解度が90%以上となっている。

表4 本の種類別の理解度

	日本語3	日本語4	日本語5	日本語6	日本語7	全レベル
段階別読み物	93.3%	95.6%	95.7%	96.7%	96.5%	95.5%
漫画	82.7%	82.6%	91.5%	90.4%	92.9%	88.6%
絵本	87.4%	86.6%	95.5%	93.5%	97.3%	92.1%
母語話者向け*	80.4%	79.2%	88.2%	88.4%	92.2%	87.4%

*漫画・絵本以外の日本語母語話者向けの本

段階別読み物の「よむよむ文庫」と「にほんご多読ボックス」はそれぞれの読み物に難しさのレベルを記している。難しさの基準は両者共通で、レベル0は入門レベル、レベル1は日本語能力試験N5程度、レベル2は日本語能力試験N4程度、レベル3は日本語能力試験N3程度、レベル4は日本語能力試験N2～N3程度である。これらの本について、読み物のレベルごとの理解度の平均を学習者のレベル別に算出した値が表5である⁽¹⁾。日本語3から日本語7までのどの学習者においても、読み物のレベルが易しいほど理解度が高い。日本語3の学習者は、段階別読み物のレベル2までは理解度が90%を超えているが、レベル4になると理解度が83%ほどと低くなる。日本語3の学習者にとってはレベル4の読み物の理解度は絵本よりも低く、段階別読み物でも母語話者向けの読み物より難しい場合もあることがわかる。一方、日本語4以上の学習者はどのレベルの読み物も90%以上の理解度を示している。

表 5 段階別読み物の理解度

	日本語 3	日本語 4	日本語 5	日本語 6	日本語 7	全レベル
レベル 0	99.8%	99.9%	99.8%	99.9%	99.2%	99.8%
レベル 1	96.4%	98.2%	98.9%	98.7%	97.2%	97.6%
レベル 2	92.1%	96.6%	97.1%	96.6%	96.8%	95.5%
レベル 3	88.1%	95.0%	95.4%	96.7%	97.3%	94.9%
レベル 4	82.7%	92.2%	91.4%	95.7%	94.6%	93.0%

3-5 読んだ本の面白さ

読書記録シートには、学習者に読んだ本の面白さを、1（面白くない）から5（面白い）の5段階で評価させた。表6はそれぞれの種類の本の面白さの平均値を学習者のレベル別に算出したものである。どのレベルの学習者も漫画は面白さの評価が最も高い。また、段階別読み物はどのレベルの学習者も値は4.0前後となっている。絵本はレベルによって評価にばらつきがある。漫画・絵本以外の日本語母語話者向け読み物の面白さは、日本語3の学習者には3.78と最も低いですが、学習者のレベルが高くなるほど面白さの評価が高くなり、日本語7の学習者には4.50と、漫画とほぼ同じ程度の面白さとなっている。

表 6 本の種類別の面白さの評価

	日本語 3	日本語 4	日本語 5	日本語 6	日本語 7	全レベル
段階的読み物	4.05	4.01	4.06	4.04	4.06	4.04
漫画	4.57	4.45	4.54	4.66	4.54	4.56
絵本	4.39	3.67	4.65	4.07	4.30	4.22
母語話者向け*	3.78	4.14	4.30	4.34	4.50	4.29

*漫画・絵本以外の日本語母語話者向けの本

表7は「よむよむ文庫」と「にほんご多読ボックス」のレベルごとの学習者の面白さの評価を示したものである。平均値は4前後のものが多いが、レベル0とレベル1の読み物の評価は、他に比べて3点台が多くあり、全レベルの平均値もこの2レベルの読み物は3点台と低くなっている。

表7 段階別読み物の面白さの評価

	日本語 3	日本語 4	日本語 5	日本語 6	日本語 7	全レベル
レベル 0	3.91	3.46	3.72	3.00	4.21	3.73
レベル 1	4.00	4.19	3.65	3.58	3.94	3.89
レベル 2	4.05	4.17	4.40	4.18	4.01	4.17
レベル 3	3.99	4.04	4.17	4.00	4.07	4.06
レベル 4	4.37	4.09	4.04	4.25	4.16	4.16

学習者が具体的にどのような本を面白いと思っているのかを知るために、10人以上読んだ本の中から、面白さの評価が高かったものを表したのが表8から表10である。人数はその本を読んだ人数を表す。表8の漫画については、同じ学習者が第1巻、第2巻等複数読んでいる場合、その学習者の記入した面白さと理解度のそれぞれの平均値を使用した。表9は段階別読み物の中で面白かった本である。レベル2の読み物に面白さの評価が高いものが多い。表10は絵本の中で面白かった本であるが、10人以上の学習者が読み、かつ面白さの評価が4以上の本は3冊しかなかった。また、漫画・絵本以外の日本語母語話者向けの本は10人以上の学習者が読んだ本がなかった。

表8 面白さの評価が高かった漫画

題名	人数	面白さ	理解度
1 夏目友人帳	10	4.90	87.20
2 ハウルの動く城	10	4.70	89.35
3 日本人の知らない日本語	32	4.65	90.19
4 坂本ですが？	14	4.64	89.64
5 日本人でも知らない!?外国人の大疑問	11	4.64	89.73
6 チーズスイートホーム	11	4.59	87.53
7 君の名は。	13	4.59	83.17
8 千と千尋の神隠し	19	4.56	91.92
9 ばらかもん	12	4.50	85.21
10 蛍火の杜へ	14	4.50	92.43

表 9 面白さの評価が高かった段階別読み物

題名	レベル	人数	面白さ	理解度
1 一休さん その2	2	15	4.60	95.00
2 ごん狐	2	19	4.58	94.71
3 落語 - 「馬小屋の火事」 「風呂敷包み」	4	16	4.47	97.44
4 一休さん	2	26	4.46	95.85
5 最後の葉	2	26	4.46	96.42
6 野菊の墓	4	22	4.45	93.00
7 小泉八雲の怖い話2 耳なし芳一・梅津忠兵衛の話	4	26	4.42	92.58
8 日本のお風呂	2	23	4.41	88.96
9 トルストイ民話集 王様とルパシカ・お父さんの物・細い糸	2	10	4.40	95.58
10 幸せな王子	3	38	4.38	96.97

表 10 面白さの評価が高かった絵本

題名	人数	面白さ	理解度
1 おおきな木	12	4.42	92.50
2 100万回生きたねこ	10	4.30	96.50
3 ずーっとずっとだいすきだよ	10	4.30	93.40

4 まとめ

本稿では、日本語の多読授業で学習者が記入した読書記録から、学習者が読んだ本、その理解度、面白さの評価を報告した。多読の授業で学習者が読んだ本は段階的読み物が最も多かったが、日本語能力の高い学習者ほど日本語母語話者向けの本を読む割合が高かった。また、授業が進むにつれ、徐々に日本語母語話者向けの本を読む割合が増えていった。授業で提出させた「読み方シート」に書かれた学習者の記述には、日本語で読む自信がついたという記述が複数見受けられ、いろいろな読み物を読みたいという記述もあった。段階的読み物のある程度の量読むことにより、日本語の読み物を読む自信がつき、母語話者用の読み物にも挑戦したいという学習者が増えていったのではないと思われる。

理解度については、自己申告の値のため正確な理解度とは言い難いが、段階的読み物の理解度が高いこと、漫画・絵本以外の日本語母語話者向けの読み物の理解度が最も低いこと、段階別読み物の中でレベルの高いものの理解度が低いという結果は納得

のいくものである。日本語母語話者向けの読み物の中では、絵本が最も理解度が高かった。絵本は子供が読むことを考えて、文章も短く、その量も少ない。また、難しい語彙もあまりなく、絵からも情報を得ることもできる。これらの要因により絵本の理解度が高くなるのではないかと考えられる。一方、漫画は、絵から情報を得ることができる点は同じであるが、日本語の易しさは考慮されていない。方言や古い時代の日本語が使われることもあり、学習者にとっては難しい語彙や表現を目にすることになる。このため、絵本に比べ理解度が低くなったと考えられる。

多読の理解度について、古川（2018）は多読では 70-90% の理解度で読むことを提唱している。今回の結果は、日本語 3 や 4 の学習者でも、どの種類の本も最低 80% 程度の理解度を示しており、この数値を見る限り理解度については問題がないように思える。しかしながら、例えば、日本語 3 の学習者は初級修了程度、日本語能力試験 N4 程度の日本語力を持つと考えられるが、彼らが日本語母語話者向けの読み物を読むのは簡単とは思えない。多読の定義である「辞書なしで読める易しい本」にこれらの読み物が相応しいのかどうかは疑問である。読み物の理解度には文章からの理解だけではなく、絵から得た情報も理解度を上げる要因となる。また、有名な本のため内容を知っていて読む場合もある。学生による理解度の申告は、このような要因も含まれていることを念頭に置き、慎重に受け止めるべきであろう。西澤他（2011）は、英語の多読を行い、他の学生より難しい本を読んでいた学生たちが読む量が多かったにもかかわらず英語力が伸びなかったことを問題とし、やさしい英文を読む重要性を指摘している。日本語の多読については、このような研究はまだ行われていないが、どのぐらいの理解度の本が日本語力向上の助けや妨げとなるのか、今後明らかにしていく必要があると考える。

面白さについては、5 点満点中 4 点台の平均値となる読み物が多く、全体的には学習者は多読の本を面白いと思っていることがわかった。種類別では、漫画が最も面白さの評価が高かった。学習者の多くは日本の漫画やアニメに馴染みがあり、母語で読んだり見たりした漫画やアニメを日本語で読みたいという者も多い。このような学習者は自分が好きな作品を選んで読むため、面白さの評価が高いのは当然と言えるかもしれない。

学習者のレベルごとの面白さの評価を見てみると、段階別読み物と漫画はそれぞれ、どのレベルの学習者でも、面白さの評価は同程度であった。絵本については、学習者のレベルによって数値に差があった。絵本は選んだ本や読み手の受け止め方によって面白さにかなりの違いが出るのかもしれない。漫画・絵本以外の日本語母語話者向けの本は、日本語 3 の学習者の評価が平均 3.78 と最も低いですが、学習者のレベルが上がるにつれ、面白さの評価も上がっている。上述したように、日本語 3 の学習者にとっては日本語母語話者向けの本は簡単に読めるものではなく、本の面白さを感じるには日本語力

が十分ではなかったのではないかと考えられる。これらの日本語母語話者向けの本は、日本語力の低い学習者にとっては適切なレベルの本とは言い難いと言えるのではないだろうか。

段階別読み物については、全体としてレベル0やレベル1の読み物の面白さが他のレベルの読み物より評価が低かった。レベル0やレベル1の読み物は語彙や文法が非常に限られており、長さも短いため、表すことができる内容も限られてくる。そのため、レベル0やレベル1の読み物は学習者が面白いと思えるものがレベル2以上の読み物に比べて少ないのではないかとと思われる。

多読では、学習者が興味を失えばその本を読むのをやめてしまうため、読み物の面白さは多読が学習者に定着するかどうかの非常に重要な要因となる。今回の調査では、全体的に読んだ本の面白さの評価は高かったが、評価の低い本もあった。また、学習者のレベルより難しい読み物は、理解の不十分さから学習者が本の面白さを味わえずに読書を終わる可能性もある。学習者が読むことへの興味を失わず、多読を続けていくためには、今後日本語学習者のための多読教材の質量両面での充実が必須であると考えられる。

注

(1) 「にほんご多読ボックス」にはレベル5の読み物もあるが、読んだ学習者が少なかったためここには含めていない。

引用文献

国際多読教育学会 (n. d.) 『国際多読教育学会による多読指導ガイド』

http://erfoundation.org/ERF_Guide.pdf (2019. 11. 6)

高橋亘(2016)「日本語多読研究に向けた基礎研究—多読活動の類型化の試み—」『言語・地域文化研究』22: pp. 369-386.

西澤一・吉岡貴芳・伊藤和晃・長岡美晴・弘山貞夫・浅井晴美(2011)「英語多読が効果を上げるしくみと多読授業の成否要因に関する一考察」『工学教育』59-4, 66-71.

日本語多読研究会(2006-2014)『レベル別日本語多読ライブラリーにほんごよむよむ文庫』アスク出版.

古川昭夫(2018)「多読の基礎知識」『多聴多読マガジン』2018年4月号, 12-17

古川昭夫・高瀬敦子・西澤一(2014)「『すべり読み』と『新・多読三原則』」『英語の多読最前線』, 118-120.

渡部倫子・徐芳芳・山下順子(2015)「日本語多読アセスメントの課題と展望(特集 第二言語習得と評価)」『第二言語としての日本語の習得研究』18, 32-52.

- Day, R., & Bamford, J. (2002). Top ten principles for teaching extensive reading. *Reading in a Foreign Language*, 14, 136-141.
- Hirsh, D., & Nation, P. (1992). What Vocabulary Size Is Needed to Read Unsimplified Texts for Pleasure? *Reading in a Foreign Language*, 8, 689-696.
- Laufer, B. (1989). What percentage of text lexis is essential for comprehension? In C. Lauren & M. Nordman (Eds.), *Special language: From humans thinking to thinking machines* (pp. 316–323). Clevedon: Multilingual Matters.
- Nation, I. S. P. (2001). *Learning vocabulary in another language*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Nation, P. and Waring, R. (2013). *Extensive reading and graded readers*, Seoul: Compass Media.